

報道関係者各位

(本資料は、2025 年 9 月 23 日にフランスおよび米国で発表されたプレスリリースの抄訳です)

2025 年 11 月 11 日
ボストン コンサルティング グループ

【参考資料】

気候変動対策の遅れにより、2030 年までに 世界の企業が年間 5,000 億ドル超の負債に直面する可能性 ～BCG・EcoVadis 共同調査

パリ・ニューヨーク発、2025 年 9 月 23 日 —— 経営コンサルティングファームのボストン コンサルティング グループ (以下、BCG) は、国際的なサステナビリティ評価機関である EcoVadis と共同で、サプライチェーン全体における CO2 排出量「スコープ 3」¹に着目したレポート「[Scope 3: From Unmanaged Risk to Untapped Opportunity](#)」(以下、レポート)を発表しました。レポートでは、スコープ 3 排出量の削減に向けた対応を怠れば、2030 年までに世界の企業全体で年間 5,000 億ドル超の負債が発生する可能性がある」と指摘しています。企業は現在、気候変動の直接的影響による「物理的リスク」と、低炭素社会に向けた政策・市場・技術の変化に伴う「移行リスク」という二重の圧力に直面しています。

スコープ 3 の削減目標を設定している企業はわずか 8%、日本では 12%

企業におけるスコープ 3 の排出量は平均すると、自社の企業活動に伴うスコープ 1 (自社の直接排出) およびスコープ 2 (自社の電力・熱・蒸気の使用に伴う排出) の合計の 21 倍に達しています。しかし、EcoVadis に排出量を報告している企業のうち、スコープ 3 を開示している企業は世界全体で 24%、削減目標を設定している企業はわずか 8%にとどまっています。日本企業においては、スコープ 3 の排出量を開示している企業が 32%、削減目標を設定している企業が 12%と、世界平均を上回る水準でした。レポートでは、現在の段階でサプライチェーンにおいて気候変動対策へ投資を行うことで、カーボンプライシング制度²に伴って生じる将来的なコストを回避し、結果として最大で 3～6 倍の ROI (投資収益率) を得られる可能性がある」と明らかにしています。

EcoVadis 共同 CEO 兼共同創業者のピエール＝フランソワ・タレーは次のように述べています。「気候変動対策を怠ることで財務リスクが生じることは明らかですが、これは大きな機会でもあります。スコープ 3 の排出量削減に取り組むことで、企業は収益性を確保しながら、より強靱なサプライチェーンを構築できるのです。排出量の大部分を占めるサプライヤーとの協働が、取り組みを効果的に始める出発点になります」

スコープ 3 排出量削減に向けた 5 つのポイント

¹ スコープ 3 には上流 (原材料やその調達時の輸送にかかる排出) と下流 (製品の使用や廃棄にかかる排出) が含まれる

² 政府が CO2 排出に価格を設定し、企業に金銭的な負担を課すことで排出削減を促す制度

レポートでは、企業がサプライチェーンの脱炭素化を加速するうえで最も効果的な 5 つの行動を提示しています。

- **サプライヤーエンゲージメント:** 気候変動対策の重要性と目標をサプライヤーと共有し、排出削減に向けた共同の取り組みを推進する。
- **排出量の測定:** 「温室効果ガス (GHG) インベントリ (排出・吸収量の目録)」を整備し、最終的には製品単位の排出データも把握する前提で、事業全体での排出量を継続的にモニタリングする。
- **気候変動対策を統括する専任チームの設立:** 全社的な低炭素化方針を設定し、実行を主導する専任のチームを設ける。
- **気候移行計画の策定:** 低炭素型ビジネスモデルへの移行に向けた全社的な計画を策定する。
- **排出量削減予算の確保:** 企業全体で脱炭素化施策を推進するための財源を確保する。

BCG ロンドン・オフィスのマネージング・ディレクター & パートナーで、本レポートの共著者であるダイアナ・ディミトロヴァは次のように述べています。「気温上昇を 1.5°C³に抑える、もしくは少なくとも 2°C 未満にとどめるためには、今後 5 年間で極めて重要です。スコープ 3 の排出はスコープ 1・2 の 21 倍に達しており、企業にとってサプライチェーンにおける排出への対応は、もはやコンプライアンス上の義務にとどまらず、財務実績を左右する重要な要因となっています。年間 5,000 億ドル超の負債リスクが懸念される一方、迅速で果敢な行動をとれば、企業のレジリエンス (強靱性) と収益性を同時に向上させることができます」

■調査レポート

「[Scope 3: From Unmanaged Risk to Untapped Opportunity](#)」

■調査概要

EcoVadis による世界 8 万 3,000 社、13 万 3,000 件以上のカーボン評価データと、BCG の統計・データに基づく分析を組み合わせて実施

³ 地球の平均気温の上昇を産業革命前の水準と比較して 1.5°C 以内に抑えることを目指す国際的な目標

■日本における担当者

半谷 陽一 マネージング・ディレクター & シニア・パートナー



BCG 気候変動・サステナビリティグループ 日本リーダー。産業財・自動車グループ、コーポレートファイナンス&ストラテジーグループのコアメンバー。
大阪大学工学部卒業。同大学大学院工学研究科修了。三菱重工業株式会社を経て現在に至る。

森原 誠 マネージング・ディレクター & パートナー



BCG パブリックセクターグループ 日本共同リーダー。気候変動・サステナビリティグループのコアメンバー。
東京大学法学部卒業。カリフォルニア大学ロサンゼルス校法科大学院修士(LL.M.)。総務省を経て BCG に入社。その後、青山社中株式会社を経て、BCG に再入社。BCG シカゴ・オフィスに勤務した経験もある。

■ EcoVadis について

EcoVadis は、グローバルサプライチェーンにおけるサステナビリティ・インテリジェンスと評価を提供することで、企業活動におけるリスク低減及び改善を促進し、持続可能な社会を実現することをミッションとしています。現在 250 の業種と 180 カ国において 150,000 社以上のサプライヤーが評価受審しています。バイヤー企業は自社のサプライチェーンネットワークにおけるサプライヤー企業の評価を基に、強みや改善点の把握に加えて是正措置実施までを EcoVadis プラットフォーム上で統合管理することができます。

■ ボストン コンサルティング グループ (BCG) について

BCG は、ビジネスや社会のリーダーとともに戦略課題の解決や成長機会の実現に取り組んでいます。BCG は 1963 年に戦略コンサルティングのパイオニアとして創設されました。今日私たちは、クライアントとの緊密な協働を通じてすべてのステークホルダーに利益をもたらすことをめざす変革アプローチにより、組織力の向上、持続的な競争優位性構築、社会への貢献を後押ししています。

BCG のグローバルで多様性に富むチームは、産業や経営トピックに関する深い専門知識と、現状を問い直し企業変革を促進するためのさまざまな洞察を基にクライアントを支援しています。最先端のマネジメントコンサルティング、テクノロジーとデザイン、デジタルベンチャーなどの機能によりソリューションを提供します。経営トップから現場に至るまで、BCG ならではの協働を通じ、組織に大きなインパクトを生み出すとともにより良き社会をつくるお手伝いをしています。

日本では、1966 年に世界第 2 の拠点として東京に、2003 年に名古屋、2020 年に大阪、京都、2022 年には福岡にオフィスを設立しました。

<https://www.bcg.com/ja-jp/>

■ 本件に関するお問い合わせ

ボストン コンサルティング グループ マーケティング 中崎・中林・天舛

Tel: 03-6387-7000 / Fax: 03-6387-0333 / Mail: press.relations@bcg.com